

## 東北大学病院の平成29年度緊急被ばく医療訓練が行われました(2017/11/14)

テーマ：放射線災害、原子力災害拠点病院、緊急被ばく医療  
場所：東北大学病院（仙台市青葉区）

11月14日（火）、東北大学病院におきまして平成29年度緊急被ばく医療訓練が行われました。今年度の東北大学病院緊急被ばく医療訓練は、昨年や一昨年とは異なり、宮城県原子力防災訓練（汚染傷病者搬送訓練）の一環として行われました。災害研からはスーパーバイザとして当研究所 災害医学研究部門 災害放射線医学分野の細井義夫教授（兼任）、放射線監修として同分野の千田浩一教授が訓練に加わりました。

被災想定を「平成29年11月14日（火）8時30分頃、地震により女川原子力発電所3号機管理区域内の弁分解点検作業エリアで、汚染機器が崩れ、付近に高濃度の放射性物質が飛散し、発電所員4名が被災する（体表面汚染・被ばくを伴い、うち1名は内部被ばくの恐れがある。）」とし、東北大学病院では「石巻赤十字病院から転院搬送された汚染傷病者の医療処置がなされる。」という想定で訓練が行われました。

東北大学病院に関わる訓練シナリオは次の通りです。1. 石巻日赤から転院調整があり受諾【左足すね部に裂傷と出血、（創部周囲に体表面汚染あり）。自力歩行不可、開放性骨折の疑い、全身サーベイ実施済、ストレッチャーで搬送、内部被ばく無し、外部被ばく 0.2 mSv/h】、2. 受入れ準備開始、県に傷病者を受け入れる旨を連絡、3. 石巻日赤から東北大学病院に向けて救急車出発、4. 救急車到着、傷病者を高度救命救急センター処置室に移動、5. 汚染検査、除染、医療処置など開始、6. 医療処置終了、医療チーム・処置室の汚染検査、7. 汚染検査終了、県に処置・汚染検査終了の旨を連絡（訓練終了）。

例年通り、DMAT隊員を含む、医師、看護師、診療放射線技師、事務職員の多職種連携による実践的な訓練が行われ、さらに本年は東北電力女川発電所職員も加わり、より実践的な内容となりました。いくつかの課題が明確になりましたが、一昨年、昨年よりも、放射性汚染物（模擬）に対する取扱い方法等は向上しており、訓練の成果が挙がっているものと思われました。



搬送直前の最終確認打合せ



搬送時の放射線サーベイ



特設の放射線管理区域内へ搬送



処置中の放射線サーベイ